

# 商賣往來講釋

表題ハ商人の賣買  
業用の文字と集る

商賣と云く往來と云はたるの字者亦のつ出入  
の出入と云はたるの字者亦のつ出入

復に文意をなすも  
凡 物の大畧を  
云は發語之 商賣

神代蛭児尊交易を  
持扱 取扱  
と出

あやかしども世倭子云とて  
貞

商

數 茶物のか 取遣之日記

品物の出入り金 銀れ備貸對候

奉天氣此晴雨すて日くの 証文

後日控 注

の証札あり

丈 仕入れ品を

請取

物の証札

質入算用

帳

金銀の高月数利息 却て換益勘定仕方の張

目録

品数代金等の 口くを一塵かき

なすふ書なる

仕切

問屋あく 運送の若お

両替

金銀と 換るの名 金子

通用金の惣名

大判

本字銀 菱長

中より通用をいゆる最下くの通用なく高きの方 律佛く献備或ハ褒賞の沙汰しめりるそお書位福答のそ

なり時ふりて 相場の高下あり

小判壹分

同時小通用始る

貳朱

往古の貳朱金ハ通用中して 明和年中南條

始より通用往古の 貳朱金ハ形なり也

金位品多

金銀の位新古 の性合ふる下あり

ことりかよへた大判より必下今のき茶金のごとくまで  
悉く金銀とも通用のゆへにさう下れあるとりひきなり

**南鏡上銀子** 南鏡への銀の上品の名を  
るがあふ上銀子とりひきの

武米銀も右りさうい  
**丁豆板** 丁銀のき枝目方四指  
三名の定るはじむ目方

不足るきへ豆板とあし合くき枝と分は豆板又小玉ともいふ  
目方不同るりあふ丁銀りとらと交枝教り拍ら目方四指三名

を銀を枝と定め逐用ハ  
時の相場よりさう下五  
**灰吹** 砂銀を吹きさうさうさう  
銀乃あふのひれ名なり

# 考質與本手 貫目

数の名一十より正載よるる  
すでに数名を大数といひあり  
**分厘毛拂** 分厘より塵  
拂よるる

乃数を小数といふ  
秤よりるるさうのさ  
**天秤分銅** 金銀をわの物ふ  
よるる天秤分銅と

目方と定む秤あり  
金銀の目方と定む乃分銅を  
而ぬぬの結皮或結ぬぬと秤の分銅を備置りさうさうの金

銀の目方よりけ合自生よ  
**割符** 物をさうりから率なり  
紙の割符紙のさうり

かすふ今 **雜穀** 粟稗黍蕎麥胡麻のたぐひ穀類  
古々のま 五穀の外をいふ雜穀なり五穀は

米大小麥大豆なりいよく森の實も五穀の内なりやよ  
扱ありいよまふ雜穀といふはのちくのなるものれと云事なり

**廻船** 江戸大坂其外あがまの漢へ  
備國より産物を積送る舟船之 **運賃** 送る物

**水揚** 船着岸の時為物陸揚 **口錢** 舟船より為物  
送へるといふ失費なり 立腹さなを

仕切合後なりしもの若令子まある舟 何れが舟物物乃  
代令れうちよを問合しむさなをいふは是世作料なり

**利潤損失** 為物仕切金の内へ法くの入り  
と引残るは利潤といふ損失といふ

物一つある時を五枚よりいふるあり  
**譬言者** 乃事とりあはれと云ふ言者

味 **噌** 麦麴みく藜たるを田  
舎味噌といふを我國これ名

産その藜一方のトといふ  
**酒** 越國より酒造家ありを肉俣  
丹池田灘西宮と云ふりいふるを

佐原潮来まつく関東より出るを地酒と云  
**酢醬油**



品く何々種目と云ねが志海とりやる金く  
その地名を称するく鉄炮の名ありけ  
**鎗長刀**

**鉾** 鎗ハ捕正成の製作長刀ハ古代のめれることも其  
もトハはまひのうあべ鉾ハ律代よりあしりる事

ども之銀木紐より  
今十文字まふ銀品  
**鎧兜鞍鎧** 古代のめれる  
る事ども今

製作とあり  
あて鉾り  
**刀脇差** 古代ハ太刀と短刀の二あり  
大小とあり帯は只中古に

率なり紐ハ天正と  
新刀と古刀の境と云  
**目貫** 古代太刀よりともひける  
目貫ハ目釘のかけらと

ねぎと云る物あり其品も海に流る物と思ふありはれ  
彫りぞけたハ大小ともありあり製作をせし物と

**縁頭** 古代太刀り用ひる刃の尻を胃金と稱し  
大小一盤せしはも角としきりけり其のち

縁頭と云ふと云ら  
ゆるとありはしり  
**鎧鞘** 其の形ありはれ  
さまぐの形ありはれ

やちハ古代象形と  
用ひる脂をたを  
**鐙** 古代稱を鐙車鐙をいし  
よしともたにありる

大小一盤せし  
随其好  
以ハ地金細工本國と云  
流りよます

唐物 西洋と漢とのものをいふもの 唐物と云ふは唐の物と云ふは唐の物と云ふは唐の物

家財 家づくにそとへて置くもの 珊瑚瑠璃

碑礫馬瑙琥珀 この五つは金と銀

珠玉あり 精瑩甲の水 水晶 日月の水

青貝卓 細工の香籠文室

雜具 簾幔幕ホもその類

藥種 和漢の草根木皮魚鱗鳥獸金

香具 此製法その種は多くか

山海魚鳥 高價の品は偽品を加へて正直

山魚鳥

解と加らるるはき甚だ多し 諸國名産しよこくめいさん

依無際限略之訖よくまがいげんりやくしよく 國こく之の物もの

率ひ由よ之の右之品々前後雖為混ひ

亂らん是こ未まだだ何なにのの文字ぶんじ何なにとと何なにとと何なにとと何なにとと

抑おさ一段いつだんのの文ぶん字じ何なにとと何なにとと何なにとと何なにとと

賣之家輩うりのかいはい 從よ幼稚ちゆうぢ

之時先手跡算術執行可しよのときせんてしよせんじゆつしよ

為肝要也たふかんえう 幼稚ちゆうぢののとと何なにとと何なにとと何なにとと何なにとと

ららひひ覚おぼゆゆをを肝要かんえうととままををわわととなりなり肝要かんえうとと何なにとと何なにとと何なにとと何なにとと

哥か 神代素盞雄尊かみよひのすくねののみこと八雲起やぐらのの御製みづかひなりなり



連歌

日本武尊新波利筑波の跡録よりし  
く一首此和歌を上下と二句より成て二人

みく 俳諧

松永貞徳翁連歌より俳諧  
なるがまき 芭蕉より上り

一盤して今此道  
乃宗匠通珠み多し

立花

此の坊を  
元祖より

蹴鞠

飛鳥  
井雅

波此お家  
を元祖より

茶之湯

元禪家より出る東山殿の  
ありより盛んより千の利

休より世上一盤  
此法流りかる

謡舞

古代よりものあり  
是も東山殿の時より

盛なり今も  
家連綿より

鼓太鼓笛琵琶琴

あれ器も古代よりものれしりも舞樂より  
もちゆれば器より今小鼓三味線ともてりてぶ

稽古之儀者家業有

餘力折々心懸可相嗜

右の品く  
心懸るをたし  
碁 吉備大臣入唐して傳つゆり  
よりはまらまらまらより名家を

# 将棋

吉田某入明して学びぬり

雙六古代より

小歌三味線

小歌と小歌の  
の相通が淨

酒肴も流し酒肴も流し酒肴も流し

右の海猫酒をいり酒をいり酒をいり

酒肴も流し酒肴も流し酒肴も流し

位定をいり酒肴も流し酒肴も流し

家業おとろへ終り身乃重西と先ふらぬ其

んぞ終り見世棚と奇悪あしもの男

の出入り心せつけ挨拶あり意略のたよみ丁

おしる仕へ代り人まか

## 大貧高利掠

人之眼 貪とる當あつらふる大利とる

難儀をもかくり五穀を買し由田圃の穀を

和を食り又も真偽を知りけり

## 蒙天罰

其物に偽し偽物としぬけり

重而問來人可稀

右の所業の人  
も加へずば天

自らを罰を蒙り物買ひに來る人と  
自往とまじくかるるをたとの事なり

恐天道

働之輩者終富貴繁昌子

孫榮花之瑞相也倍々利

潤無疑仍而如件

天道と恐る  
こと能く天道

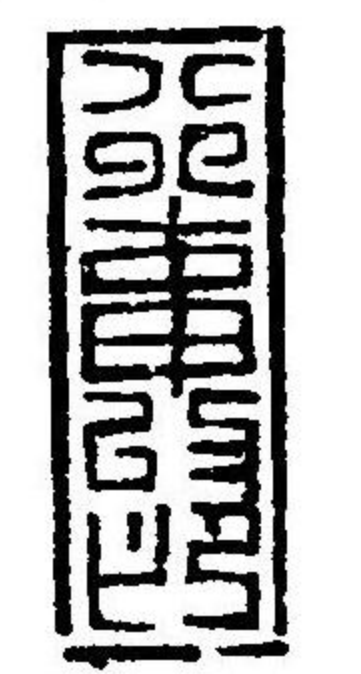
をすもて後そめあも御徳澤とてまじく正直申すこと急りなくおのせ

が業を以て免るるを天道の利のそを成る所も  
取らざれば利を食らばるるを天道をおそることいふ也

斯のこゝれとのり終一天道の冥利ふ叶い家富  
榮一子孫長く繁昌れまば一何れも終まじく志業

乃利溷ありし疑ありしなすの終儂くそ熱を述る  
事奉文の一移くのこゝろ乃れごとくか云云

商賈生來講釋終



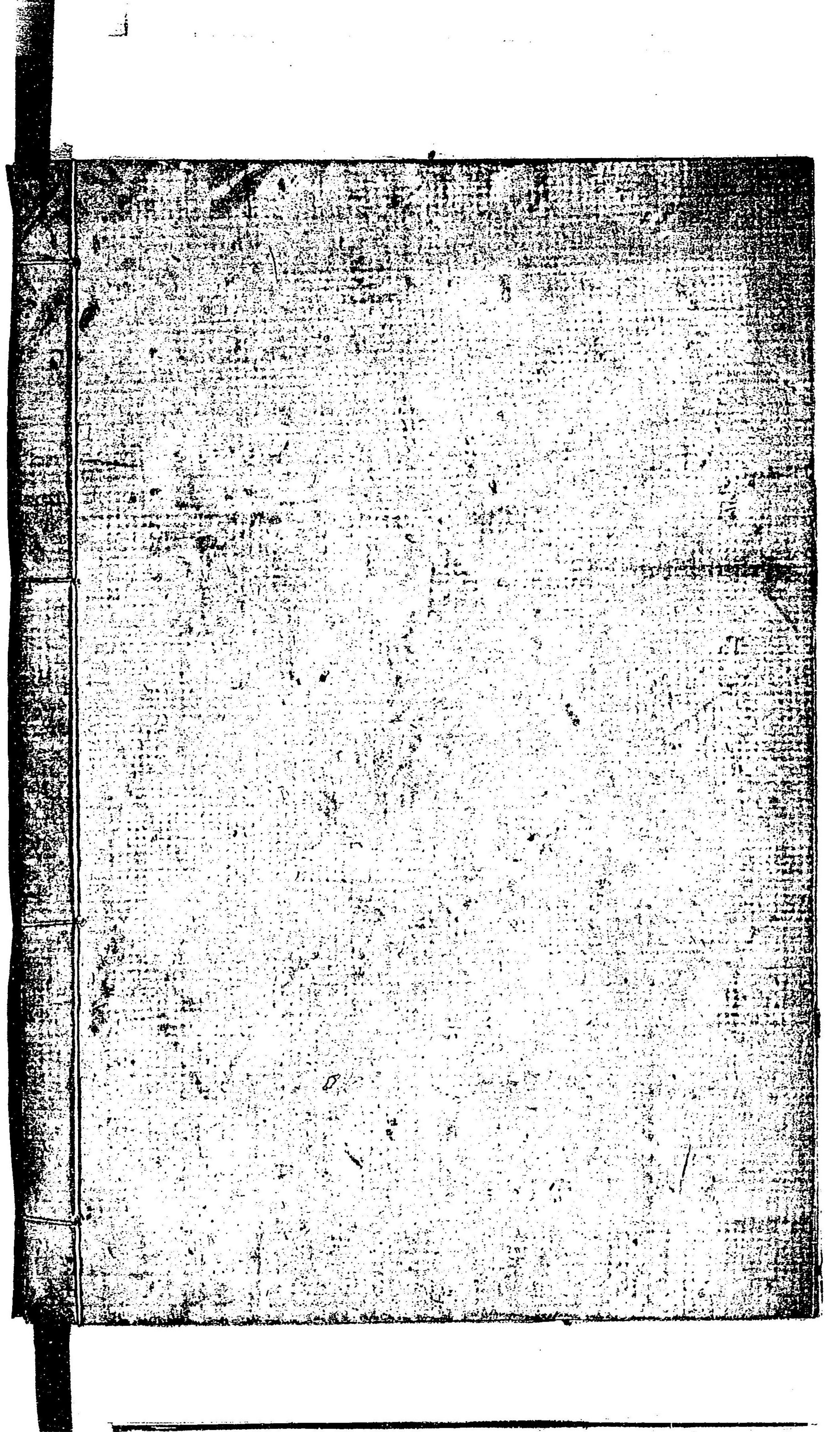
全 明治十九年六月廿一日御届  
七月十日刻成

價 四 錢

富山縣士族

出版人 河上權藏

越中國婦負郡富山  
船頭町三十五番地



200

043462-000-1

特43-200

商売往来講釈

河上権蔵

M19

BDL-0437

